

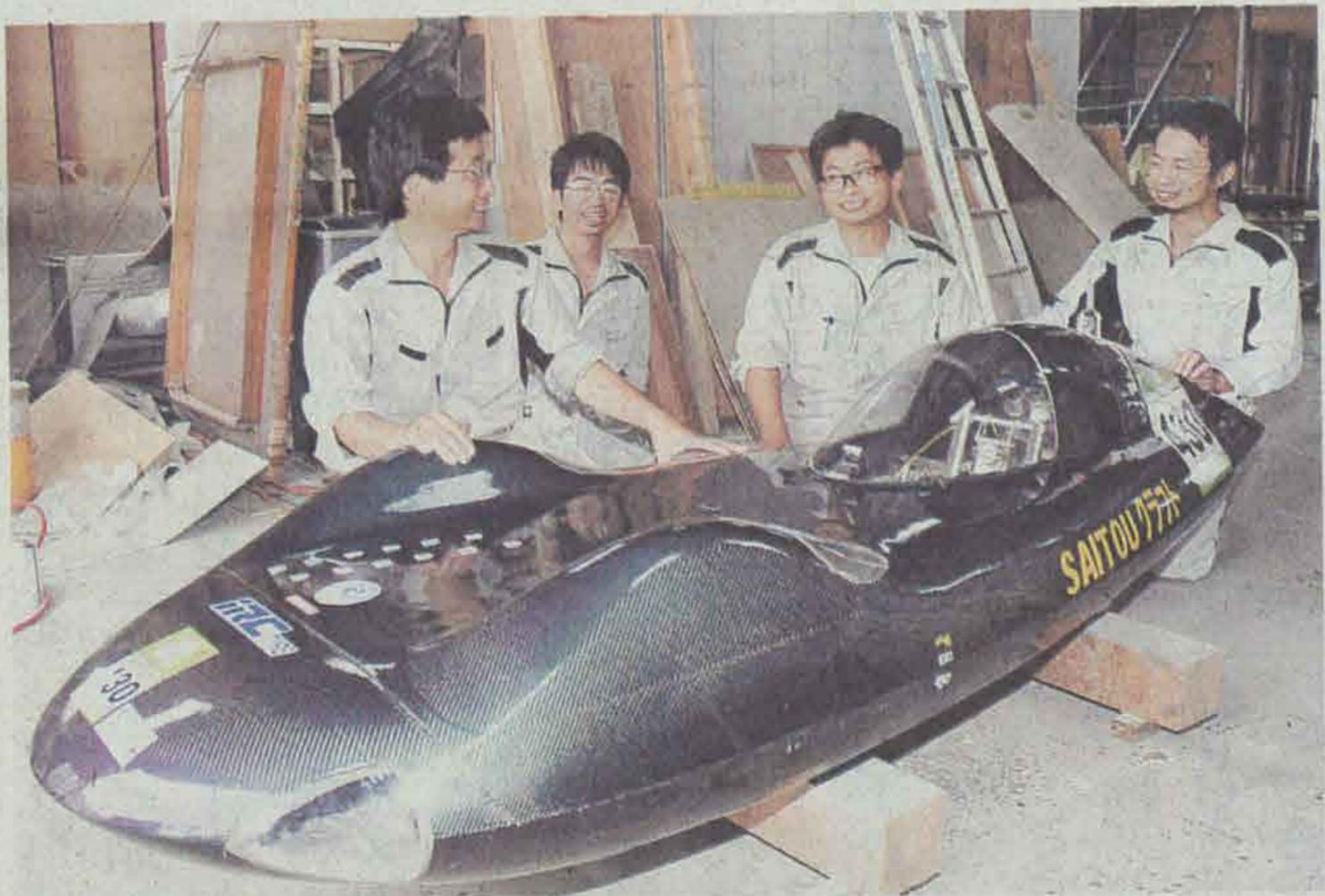
実験用具開発

本業の技を新分野に

山形

板金塗装や電気自動車製造を手掛ける斉藤クラフト（山形県中山町、斉藤秀雄社長）。培った自動車分野の技術を生かし、スキーマの競技力向上に向けた実験用マネキンの製作など、新たな分野でビジネスチャンスを広げている。

1992年に創業し、現在の従業員は3人。小規模なが



斉藤クラフト(中山町)

らも本業以外にカーボンファイバー（炭素繊維）製の扇子などさまざまな製品開発を請け負い、近年は山形大学や筑波大学から実験用具も受注する。

例えば2013年に開発した、スキーマ・ジャンプの飛び出しから着地までの姿勢を再現できるマネキン。最適なウェアや姿勢を探る風洞実験に使用されている。電気自動車のボディに使う繊維強化プラスチック製で肩や股関節など14カ所が動く。完成度は高く、アルペンスキーなど他競技のマネキンの注文にもつながっている。

毎年、省エネカーレースに参戦し、本業のレベルアップも欠かさない。昨年、ガソリン1リットル当たりの走行距離を競う全国大会の一般クラスで1793.812キロを記録し、過去最高の4位に輝いた。斉藤社長は「今後も本業を大事にしながら新分野に挑戦したい」と力を込めている。

省エネカーレースに参戦し、自動車分野の技術力向上に努める斉藤クラフト。写真左が斉藤社長―中山町の斉藤クラフト

(山形新聞)